

下記文章の中で、「全軟連」とあるのは(公財)全日本軟式野球連盟、「東連」とあるのは(公財)東京都軟式野球連盟の略記です。

尚、2024年度の公認野球規則の改正では特にプレイに関する改正はありません。

(1) 先攻／後攻の決め方

これまで試合時の先攻／後攻は、トーナメント表に付された番号が若いチームが後攻と決まっていたのですが、これを両チームのジャンケンで決することとします。

具体的には、試合前に球審が監督とキャプテンをホームベース付近に呼び、キャプテン同士のジャンケンで決めます（ジャンケンに勝った方が先攻か後攻かを選択する）。

どちらのベンチに入るかは、今まで通りトーナメント番号が若いチームが1塁側です。

(2) 公認学童コーチ保有者のベンチ入りに関して

かねてよりお伝えしていた通り、今年度より学童部の試合では公認学童コーチまたは同等資格保有者のベンチ入りが義務化されます。

ベンチ入りするスタッフのどなたかが資格を保有している必要があります。

資格保有の確認タイミングについては、上記(1)のジャンケンの際に資格保有者もホームベース付近に来て頂き、その際に行います。

確認方法は保有資格の登録証(カード)の提示にて行いますので、必ずご持参下さい。

もし忘れた場合は、スマホから資格が確認できる画面（例えば、PlayBB-membersのマイページ）の提示で代替することもできます。

ベンチ入りしたスタッフの誰も資格を保有していない場合は、そのチームは不戦敗となります。

(3) 捕手用マスクのSGマーク義務化に関して

捕手用マスクのSGマーク合格品の着用義務化は、コロナ禍による原材料不足等の理由によりこれまで猶予されてきましたが、昨年12月に全軟連より下記通知がありました。

「2024年をもって猶予期間を終了し、2025年から義務付けを行う。」

宜しくご認識の程お願い致します。

(4) 学童部のバットの使用制限について

これも昨年12月に全軟連からの通知です。

「学童部では、一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を2025年より禁止する。」

学童部の選手が一般用のいわゆる「高反発バット」を使用することの制限です。

一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合(金属/カーボン)バットについては使用制限を行わないとなっており、且つ少年用バットの使用制限も行わないとのこと。

(5) DH制の導入に関して（資料ご参照）

全軟連では2024年より少年部(学童・少年)の各大会でDH制を導入します。東連でも導入される方向であり、当連盟も今年より導入致します。チームがDH制を採用するか否かは自由です。

DH制を採用した場合、メンバー表は守備位置の箇所に「DH」と記載、投手は9番打者の次行が1行分空いているメンバー表が多いので、この行の守備位置に「P」と記載して下さい。以上